



社会課題の解決に貢献する
世界最高水準の
社会システムイノベーション研究

神戸大学 社会システムイノベーションセンター 2024



神戸大学

社会システムイノベーションを通じた政策提言と 社会実装のための異分野共創研究プラットフォーム

神戸大学社会システムイノベーションセンターは、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科、経済経営研究所の社会科学系5部局の有機的連携を図り、社会問題の解決を目指した社会システムのイノベーションと社会実装を推進する文理融合研究を行うことを目的として2016年4月に設置されました。

社会問題の解決のため先端的な実証研究によって問題を分析し、その一般化・理論化を図る手法を採用し、社会に貢献しつつ学問的にも世界最高水準の社会システムイノベーションの総合的研究拠点を形成し、社会システムイノベーションの専門家たる若手研究者を育成します。

研究体制

社会問題を効果的に解決し社会に受け入れられるためには、社会システムを全体としてイノベーション創出型へと革新する必要があります。社会システムイノベーションセンターでは、社会を「社会制度」、「科学技術」、「市場」の3層から構成されるシステムと捉え、その全体を研究対象としつつ、この3層を「ビジネスプラットフォーム」と「パブリックウェルフェア」の2本柱を架け橋として有機的に結びつけた研究結果を政策提言・社会実装することにより、社会問題を解決することを目指していきます。

当センターは、2024年度から、ビジネスプラットフォーム研究部門とパブリックウェルフェア研究部門の2部門体制で研究を進めます。各部門の概要は下記のとおりです。

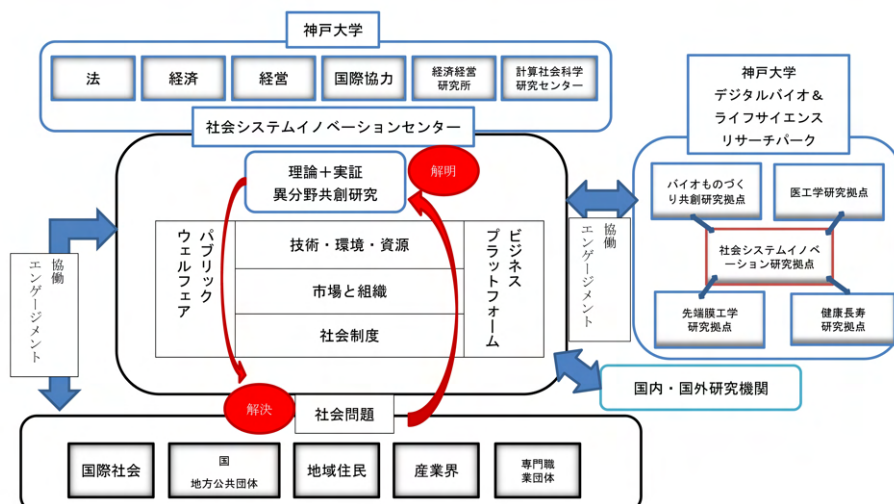
① ビジネスプラットフォーム研究部門

経済のデジタル化に伴って、市場、組織に次ぐ第3の資源配分メカニズムとして社会的重要性を増しているプラットフォームに関する価格設定、独占・寡占、個人情報保護、無形資産の認識・測定、マーケティング、社会政策への活用などの諸問題を、法学、経済学および経営学のみならずICTやウェルビーイングの観点からも研究するとともに、大学内シーズと社会ニーズとのマッチングという社会連携プラットフォームの構築にも貢献する。

② パブリックウェルフェア研究部門

技術・資源・環境、開発、金融・財政、貿易、医療・福祉、市場、組織、プラットフォームそして社会におけるSDGsなどの社会課題に対して、社会科学の枠を超えた異分野共創研究を実施し、その成果を政策提言・社会実装する。

さらに、2022年10月から本センターは、国立大学経営改革促進事業の一環である神戸大学デジタルバイオ&ライフサイエンスリサーチパーク構想における神戸大学の4大フラッグシップ研究拠点を結びつける中核拠点として、社会科学のみならず文理融合・異分野競争研究の促進とその成果の社会実装を担う役割も負うこととなっています。



社会課題の解決に貢献する研究の 推進拠点としてさらなる発展を

社会システムイノベーションセンター長

衣笠 智子



1902年にわが国で2番目の官立高等商業学校として設立された神戸高等商業学校は、1929年に神戸商業大学（1944年に神戸経済大学に改称）に昇格し、1949年に神戸大学となりました。この過程で社会科学系の部局は、当初の1学部から現在では4研究科1研究所の計5部局となり、260名以上の専任教員を抱える、わが国における社会科学の一大研究拠点となっています。もともと実学志向の強い学風でしたが、その一方で各研究分野は進歩とともに細分化される傾向にあり、社会の経済・社会問題が複雑化していく中で、今一度、種々の専門分野の研究者を結集し、高度な分野横断的研究を強く意識して発展させることが社会から要請されるようになりました。

このような社会的要請に応え実践する拠点として、2012年4月に神戸大学社会科学系教育研究府が設立され、そこでは、社会科学系5部局の連携によりさまざまな先端的・学際的プロジェクトが実施されました。2016年4月には、これらの研究を社会システムイノベーションの総合的研究と位置づけ、より強力に進める拠点として、社会科学系教育研究府を改組して社会システムイノベーションセンターが設置されました。

本センターは、社会科学系教育研究府で行われてきた分野横断研究を継承し、学内諸研究組織とも連携して、社会システムイノベーションの創出と社会実装を推進しています。2019年4月からは8部門体制となっています。

本センターでは、各部門の研究成果を学術誌だけでなくシンポジウム・講演会等を通じて広く情報発信し、さらに政策提言・社会実装を通じて社会に還元していきます。今後とも引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特命教員紹介

本センターには、専任教員 5 名（センター長、副センター長）、特命教員1名が所属しています。特命教員は本センターの国際共同研究、定評ある国際誌への論文発表、研究を基礎にした政策提言や社会実装、シンポジウム等の社会還元を牽引しています。



大塚 啓二郎（特命教授）

開発途上国の製造業におけるイノベーション、農村工業化のためのイノベーションが実際に起こるようになるにはどうしたらいいか、タイ、インド、パキスタン、南アフリカを事例に研究を続けています。

研究部門紹介

本センターは、社会問題の解決を目指した社会システムのイノベーションと社会実装を推進する分離融合研究を行うことを目的として、2部門体制で研究を進めています。

2024年度には22プロジェクトに学内研究者86名、学外研究者75名が参加しています。

ビジネスプラットフォーム研究部門



部門長・副センター長
高田 知実

経済のデジタル化に伴い、市場、組織に次ぐ第3の資源配分メカニズムとして、プラットフォームが社会的重要性を増している。

ビジネスプラットフォーム研究部門では、地域、国内、および国際的な課題に関して、人材、金融、ICT、サステナビリティといったさまざまな観点から、プラットフォームの活用を軸とした研究を行う。これらの研究により、多様な社会的課題の解決につながる社会実装を目指す。また、大学内シーズと社会ニーズとのマッチングという社会連携プラットフォームの構築にも貢献する。

パブリックウェルフェア研究部門



部門長・副センター長
馬場 健一

本部門では、技術・資源・環境、開発、金融・財政、貿易、医療・福祉、市場、組織、プラットフォームさらに社会におけるSDGsなどの広範な社会課題を研究テーマとして取り上げる。

これらの諸課題に対して、社会科学の枠を超えた異分野共創研究を実施し、その成果を政策提言・社会実装することに取り組む。

研究プロジェクト一覧（2024年度）

ビジネスプラットフォーム研究部門

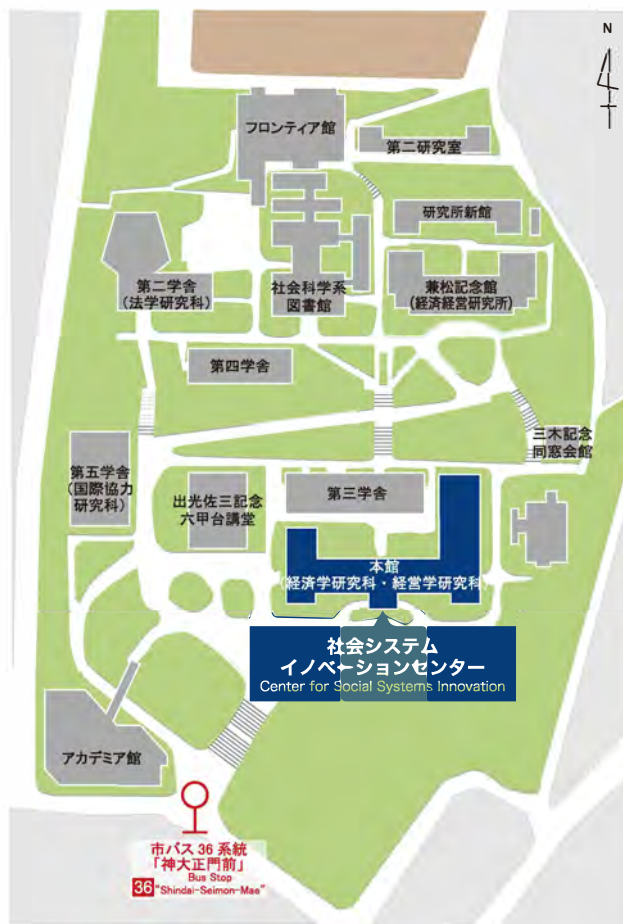
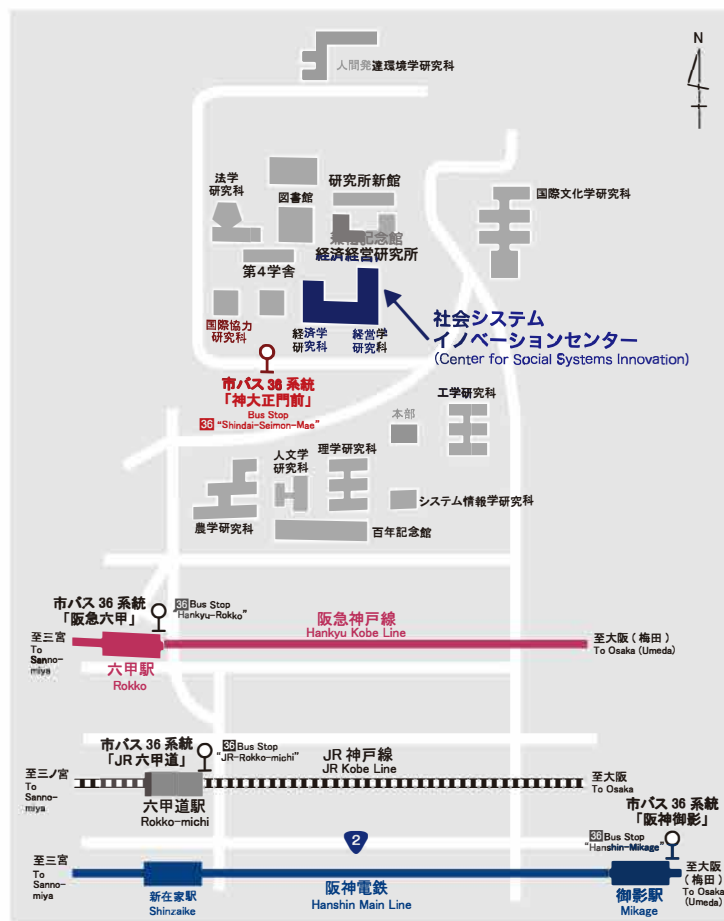
- 高度情報通信ネットワーク社会における知的財産法制の役割
- 国際価値連鎖（GVC）と新興国における新しい産業政策
- 人事管理における研究と実務の架橋可能性についての実態調査
- アセアン後発諸国経済法制ガバナンス研究
- 地方観光協会向けの小規模サイクルシェアプラットフォームの提供、及び同プラットフォームを広告媒体として用いる事による観光消費増大の実験と効果測定
- プラットフォームの影響力拡大に伴う多元的リスクに対応した次世代規制の包括デザイン
- 社会環境問題解決に貢献するあるべきサステナビリティ経営の実践に関する研究
- デジタルとグリーン金融革新：新たなビジネスモデルと社会連携に向けた総合研究プロジェクト
- オンライン商売と国際貿易の関係

パブリックウェルフェア研究部門

- 法経連携専門教育（E L S）プログラム
- ヘルスケア組織マネジメントシステム
- 「難民」多様化時代における多文化共生政策システムの変容に関する国際比較研究
- 仕事の職務（タスク）からみた労働者の分配問題に関する研究
- 六甲山界隈の環境教育プログラムの開発および実施を通じた領域横断型の地域連携
- パブリックウェルフェア領域の世論形成に与える「専門家」の役割
- ポストコロナの少子高齢化と農業
- 人的資本と経済成長の学際的研究
- 減災・復興の異分野共創型教育研究—神戸発の地域防災モデル「防コミ」の再活性化
- ELSグローバルイニシャティブ
- 持続可能な地域社会の実現と金融
- 「加点式健診事業（よいとこ健診）」による地域活性化と健康づくりのモチベーションアップ
- 多様な人間社会における信頼・協力・公平性に関する実験研究

各プロジェクトの詳細は、本センターウェブサイトをご覧ください。

アクセス マップ



最寄り駅から社会システムイノベーションセンターまで

【徒歩】

阪急「六甲」駅から約 15 分

【バス】

神戸市バス 36 系統「鶴甲団地」行き、または「鶴甲 2 丁目止まり」行き乗車、阪神「御影」駅から約 25 分、JR「六甲道」駅から約 15 分、阪急「六甲」駅から約 10 分、「神大正門前」下車

【タクシー】

阪神「御影」駅から約 20 分／JR「六甲道」駅から約 15 分／阪急「六甲」駅から約 10 分



神戸大学
社会システムイノベーションセンター

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1

Tel : 078-881-1212 (大代表)

E-mail : cfssi-office@edu.kobe-u.ac.jp

ウェブサイト <http://www.cfssi.kobe-u.ac.jp>